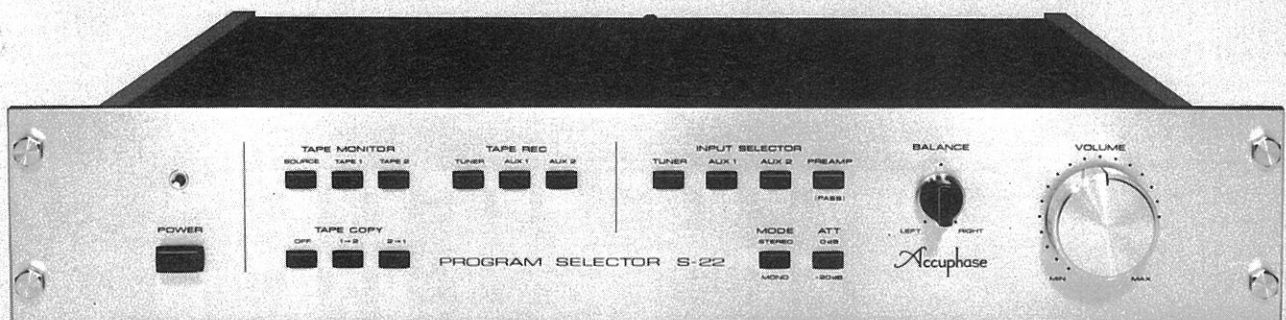


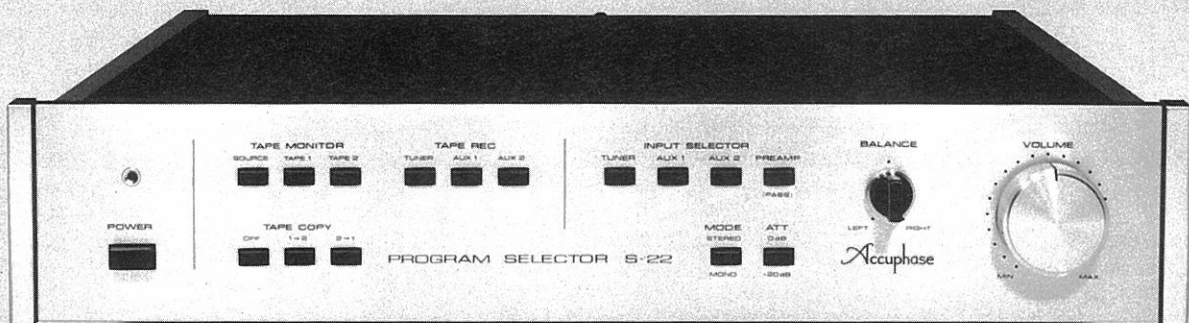
Accuphase

STEREO PROGRAM SELECTOR
ステレオ・プログラム・セレクター

S-22



TYPE A



TYPE B

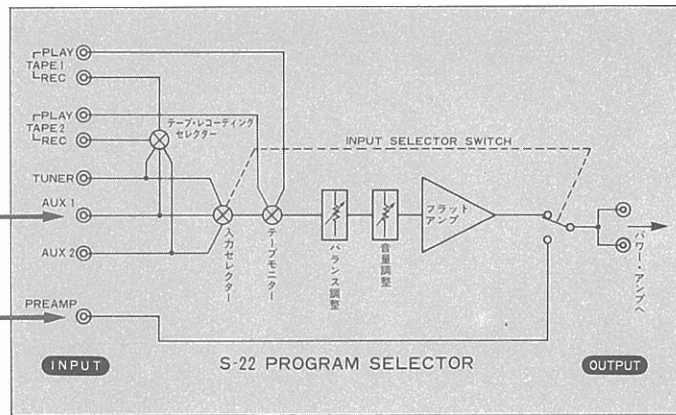
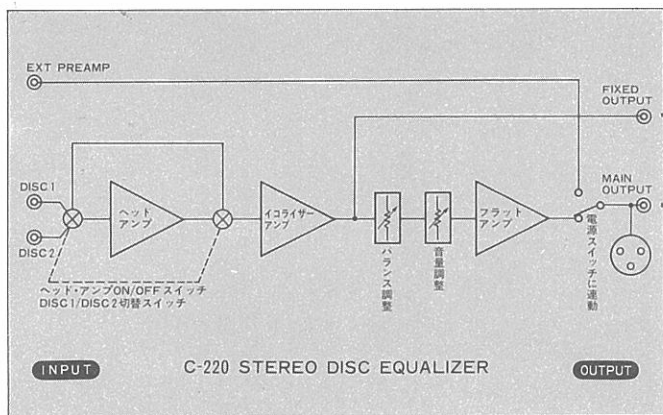
アキュフェーズS-22型は、プレーヤー以外の機器を接続することができない「ディスク・イコライザーC-220型」と共用し、チューナーやテープレコーダー等のプログラム・ソースをセレクトして、音量やバランスをコントロールする「プログラム・セレクター」です。

つまり、C-220とS-22の組合せで多機能プリアンプとしての働きをすることになりますが、レコード再生時は本機のPASSスイッチによりC-220のみが動作して、クオリティーの高いレコード再生をお楽しみいただけます。

本機は、ゲイン24dBの広帯域フラット・アンプを内蔵し、いかなるパワー・アンプに接続してもゲインが不足することがありません。また、2台のテープレコーダー間でのダビングも可能であり、録音しながら別のプログラム・ソースを楽しめる「録音出力セレクター」が独立しているのも本機の特長です。

Accuphase S-22

プログラムセクター



1 DCプッシュプル24dBフラット・アンプ内蔵

チューナーやテープレコーダーのゲイン不足を補うために24dBの広帯域フラット・アンプを内蔵しました。このアンプはC-220のハイ・レベル・アンプと全く同一のもので、アキュフェーズのオリジナル、完全対称型プッシュプルD C回路で構成されています。厳選された素子と高度な回路技術により、実測ひずみ率は20-20,000Hz間0.002%以下で測定限界に達しており、S/Nも極限的な値になっております。

また入力回路はコンデンサーを使わない直結方式により、一段とカラレーションの少ない再生音を期待できます。

2 5系統の入力回路

入力はテープレコーダー2系統、チューナー1系統、その他2系統の計5系統と豊富です。従ってテープレコーダー、チューナーの他にテレビ・チューナー等も接続することが可能です。

3 豊富なテープ機能

2台のテープレコーダーを接続でき、テープ・モニター・スイッチによりそれぞれをモニターすることが可能です。更にコピー・スイッチにより相互のダビングも可能で、同時に録音状態をモニターすることができます。本機のもう一つの大きな特長は、「録音出力セクター」が独立していることです。インプット・セクターに関係なく録音しようとするプログラム・ソースを選べるので、例えばFM放送を録音しながら、レコード再生を楽しんでいただけます。もちろんその逆も可能です。

4 パス・スイッチによりレコード再生時はC-220が動作

本機を使用する目的は、あくまでも

チューナーやテープレコーダーを再生するためのものです。従ってレコード再生時は本機の増幅回路を通すことなく、純粋にC-220のみで再生したいものです。そのようなご要望に応じて本機に「パス・スイッチ」を設けました。このスイッチはインプット・セクターと連動しているもので、「パス・スイッチ」を押すことにより、C-220の出力がダイレクトにパワー・アンプへ導かれるように配慮されています。

5 その他のファンクション

その他のファンクションとして、左右の信号をミックスしてモノフォニック信号にするための「モード・スイッチ」、そしてレコードのかけ替えや曲の頭出しに便利な「アッテネーター・スイッチ」を設けました。減衰レベルは最も使い易い-20dBに設定してあります。

6 S-22とC-220の接続

以上のような有機的な機能を実現するために、S-22とC-220の接続は上図のようにおこないます。まず、プレーヤーはC-220の入力、チューナー、テープレコーダーはS-22のそれぞれの入力端子に接続します。パワー・アンプに接続する出力端子はS-22のOUTPUTです。C-220のOUTPUTはS-22のPRE-AMP入力に接続します。この入力端子はS-22のブロック・ダイアグラムでもお分りの通りINPUT SELECTORのPRE-AMP(PASS)スイッチによってパワーアンプへ直接導かれます。

さて、レコード再生信号をテープレコーダーに録音する場合ですが、C-220のOUTPUT信号は、同機の音量調整やバランス調整によってレベルが変化するので、この出力からの信号を録音用を使用することは不都合です。そこで、

図のようにC-220のこれらコントロールを通る前の出力、FIXED OUTPUTからS-22のAUX-1またはAUX-2に接続しておきます。録音するときは録音セクターでそのポジションを押して、

出力を取り出します。これによってC-220のボリュームの位置に関係なく、一定の録音レベルで録音することが可能となります。

●販売価格 **80,000円**
(A型・B型)

[S-22 保証特性]

- 周波数特性
20-20,000Hz +0, -0.2dB
3-500,000Hz +0, -1.0dB
- 高調波ひずみ率
0.005% 20-20,000Hz
定格出力にて
- 定格入力・入力インピーダンス
126mV 35kΩ
- 定格出力・出力インピーダンス
OUTPUTS 2.0V 50Ω
- 最大出力レベル
10V以上 ひずみ0.005%
20-20,000Hz
- 最小負荷インピーダンス
OUTPUTS 5kΩ
- ゲイン
TUNER, AUX, TAPE PLAY
入力より
OUTPUTS 24dB
- S/N・入力換算雑音レベル
(IHF-A 入力ショート)
110dB(定格入力時) -128dBV
- アッテネーター
-20dB
- 使用半導体
34Tr, 7FET, 12Di
- 電源及び消費電力
100V, 117V, 220V, 240V
50/60Hz 消費電力15W
- 寸法・重量
(A型) 幅482mm×高さ82mm×奥行345mm
(B型) 幅445mm×高さ82mm×奥行349mm
7.0kg (A型, B型共)

[S-22 コントロール]

- VOLUME (音量調整)
フロント・パネル
左右連動連続可変型
- BALANCE (左右音量バランス)
フロント・パネル
連続可変型
- INPUT SELECTOR (入力セクター・スイッチ) フロント・パネル
4連プッシュ・スイッチ
TUNER AUX-1 AUX-2
PREAMP (PASS)
- TAPE MONITOR (テープ・モニター・スイッチ) フロント・パネル
3連プッシュ・スイッチ
SOURCE TAPE 1 TAPE 2
- TAPE COPY (テープ・コピー・スイッチ) フロント・パネル
3連プッシュ・スイッチ
OFF 1→2 2→1
- TAPE REC (録音セクター・スイッチ) フロント・パネル
3連プッシュ・スイッチ
TUNER AUX-1 AUX-2
- MODE (モノフォニック・ステレオ切替スイッチ) フロント・パネル
プッシュ・スイッチ
STEREO MONO
- ATT (アッテネーター・スイッチ) フロント・パネル
プッシュ・スイッチ
0dB, -20dB
- POWER (電源スイッチ) フロント・パネル
プッシュ・スイッチ
ON OFF

Accuphase
KENSONIC LABORATORY INC.
ケンソニック株式会社
横浜市緑区新石川2-14-10 〒227